

# 基本的なルール

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。障害によりボールを投げることができなくても、勾配具(ランプ)を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。競技は男女の区別なくBC1~BC4のクラスに別れて行われ、個人戦と団体戦(2対2のペア戦と3対3のチーム戦)があります。

## ボッチャ

ボッチャは、どれだけ多くのボールを的(ジャックボール)に近づけられるかを競う競技である

個人競技とペア、3人ずつのチーム対抗の三種の種目があり、男女混合で行われる。パラリンピックでは重度の脳性まひ者の競技となっているが、障害を持つ・持たないの区別なく楽しめるわかりやすさと、作戦次第でそれまでの結果がひっくりかえる面白さを合わせて持っている

### 個人競技の場合

【先攻・赤】  
ジャックボールと持ち玉一個を投げる

【後攻・青】  
持ち玉一個を投げる。  
以後、ジャックボールに近い方がボールを一個ずつ投げる

### ボッチャの逆転術

ジャックボール

青が2点

赤がジャックボールを目掛けてぶつける

一挙に赤が3点獲得

ジャックボール無効ゾーン

審判

副審

ジャックボール的となるボール。ラウンドごとに敵と味方が交互に投げる

6m

12.5m

### 勾配具を使う場合

ボールを投げられない選手たちは、ランプと呼ばれる器具と介助者の助けのもとでボールをころがす

介助者  
口をさくことやサインを送ること、ゲーム中のコートを見ることも禁止。選手の指示通りに補助具を動かす

ベニヤ製のもの

勾配具(ランプ)  
決まった形はなく、選手がそれぞれ工夫して使っている

パイプを改造したもの

### 得点の決め方

ジャックボールに一番近いボールを投げたチームが勝ち

1点 1点 1点

相手チームの一番ジャックボールに近いボールよりもジャックボールに近いボールがそれぞれ1点の得点となる(上の場合は赤が3点)

### ボールの特徴

表面のぬい目のせいで独特のころがり方をする

TUBE GRAPHICS

- 1.コイントスで先攻後攻を決め、先攻サイド(赤)がジャックボールをコートに投げ入れます。(ジャックボールがジャックボール無効ゾーンに止まった場合は、相手側にジャックボールを投げる権利が移ります。)
- 2.続けてジャックボールを投げた選手が最初のカラーボールを投げます。
- 3.次に相手側のサイド(青)がカラーボールを投げます。
- 4.それ以降は、ジャックボールより遠い距離にあるカラーボールの側がボールを投げます。赤・青どちらが遠い距離にあるかは審判が判断し、選手に指示板で伝えます。
- 5.両チームがすべてのカラーボールを投げ終わった時点で1エンド終了し、得点をつけます。

### 得点の数え方

- ジャックボールに一番近い相手のカラーボールよりも、さらに近い位置にある自分のカラーボールが、それぞれのボールにつき1点となります。
- 異なった色の2個以上のカラーボールがジャックボールから一番近い位置に等距離にあった場合は、各ボールにつき1点となります。



- 6.2)～5)を個人戦・ペア戦は4エンド、チーム戦は6エンド行います。2エンドは青、3エンドは赤、4エンドは青と、交互にジャックボールを投げてゲームを開始します。
- 7.すべてのエンドを終了した時点での赤・青の得点を計算し、勝敗を決めます。同点の場合は、ジャックボールをクロスに置いた状態からタイブレークを行います。
  - コート外に出たボールはアウトボールとなります。(オンラインはアウトボールとなりません。)
  - ゲーム中にジャックボールがコート外に出た場合は、コート中央のクロスに置きます。
  - 持ち時間は、1エンドにつき個人戦の場合 BC1・BC2・BC4 は5分、BC3 は6分。ペア戦 BC3 は8分、BC4は6分、チーム戦は6分。団体戦は1ゲーム1チーム1回のタイムアウト(3分間)が認められています。
  - ボックスの外やスローイングラインを踏んでボールを投げたりした場合は、ペナルティ(反則)となり、相手側にペナルティボール2球が与えられます。(勾配具を使用する際は、勾配具の端がスローイングラインを空間上で越えていてもペナルティとなります。)ペナルティで投球したボールはアウトボールとなります。(反則球の除去)
  - ランプスを使う場合、介助者にランプスを持ってもらい、選手が介助者に指示を出して自分の意思を介助者に伝えることができますが、介助者はゲーム中に選手に指示を出したり、会話によるコミュニケーションを取ったり、コート内を見るなどはできません。そのような行為があった場合はペナルティとなります。